

彙 報

会 長 早 田 輝 洋

平成13年度第2回常任委員会

日 時：平成12年11月17日（土）午後10時～午後12時30分

場 所：九州大学文学部4階会議室

出席者：早田輝洋（会長）、梶 茂樹（事務局長）、荻野綱男、郡司隆男、坂原茂、坂本 勉、佐藤昭裕、庄垣内正弘、田窪行則、田村すず子、津曲敏郎、西光義弘、林 徹、日比谷潤子、平野尊識、松村一登、宮岡伯人、宮原文夫、藪 司郎、吉田和彦、（以上21名）

委任状：34名

オブザーバー：荻野綱男（会計監査委員）、窪園晴夫（会計監査委員）、下宮忠雄（CIPL 連絡委員）、塩原朝子（事務局長補佐）

[報告事項]

議事に先立って第123会大会実行委員長、坂本勉氏（九州大学）から大会開催にあたっての挨拶があった。

(1) 平成12年度決算書の訂正

前回委員会で承認された平成12年度決算について、決算書の記載の一部に誤りがあったことが事務局長より報告され、訂正が行われた。消耗品費に関して、内訳部分の記載（29万7,057円）と、総計部分の記載（33万6,957円）に相違が見られたが、正しい額は総計部分の33万6,957円である。事務局長の報告に続き、会計監査員の窪園氏がこの件に付いて確認した旨報告した。

(2) 『学術用語集 言語学編』の著作権収入について

『学術用語集 言語学編』の著作権収入として19万8,450円の収入があったことが報告された。

(3) 日本学術会議東洋学研究連絡委員会、ニュースレター発行賛助金

日本学術会議より上記の依頼があり、賛助金として2口2万円を支出する旨が報告された。これは雑費からの支出となる。

(4) 国際言語学者会議について

上記の件について、CIPL 連絡委員の下宮忠雄氏から報告があった。

2002年にメキシコで開催予定であった上記会議は諸般の事情により中止となり、ブラハで2003年の7月18日に開催されることが決定した。

(5) 常任委員会の報告

事務局長から9月29日の常任委員会の報告が行われた。(詳細は平成13年第2回常任委員会報告を参照のこと。)

(6) 各委員会からの報告

(A) 大会運営委員会 (日比谷潤子委員長)

大会運営委員会を9月8日、学会事務局において開催し、プログラムと司会者の決定を行った。研究発表は62件の応募中、45件を採択した。(採択率73パーセント)。

(B) 編集委員会 (田窪行則委員長)

・以下の六人の特別編集委員を依頼し、受諾された。カッコ内は所属と専門分野

Charles Fillmore (UC Berkeley, Lexical Semantics and Pragmatics),
Chungmin Lee (Seoul National University, Pragmatics and Semantics),
Peter Austin (University of Melbourne, Australian Aboriginal languages),
Wesley Jacobsen (Harvard University, Japanese),
Christopher Kennedy (Northwestern University, Syntax and Semantics),
Juha Janhunen (University of Helsinki, East Asian languages)

・平成15年3月号として300~400ページ程度の程度の英文誌(特集号「移動に関する研究(仮題)」)を企画している。8本の依頼原稿に加え2本程度の投稿原稿を掲載する予定である。(なお、依頼原稿についても通常の査読を行う。)

・『言語研究』の編集状況について、120号については、順調に編集作業が進行している旨報告があった。しかし、以降の号に関しては掲載可能な原稿の確保に困難が予測されることから、『言語研究』への会員の投稿を促す発言があった。

(9) 夏季講座検討小委員会 (西光義弘委員)

夏期講座2002の計画について報告があった。2002年8月19日~24日、長野県茅野市白樺水源荘で実施予定。講座の詳細についてはホームページ (<http://www.osaka-gaidai.ac.jp/~nasu/kaki/top.htm>) で公開中である。(審議事項の(4)に関連事項あり。)

(10) Pacific Rim Institute 検討小委員会

・Pacific Rim Instituteの終了に伴い、同Instituteのassociate directorであった柴谷方良氏から日本言語学会の協力に対する感謝が表明されたことが報告された。同Instituteの報告は、『言語研究』120号に掲

載予定である。

- ・同 Institute の終了を受けて同検討小委員会は本委員会をもって解散することになった。

(11) ホームページ作業部会 (梶 茂樹事務局長)

- ・学会ホームページに大会のプログラム、言語学関係のイベント、各出版社からの書評依頼などの情報を掲載中である。
- ・日本学術会議のホームページから、言語学会ホームページへのリンク依頼があり、承諾した旨報告があった。

[審議事項]

(1) 第124会大会

上記大会を東京外国語大学(府中市)で開催する旨提案があり、了承された。期間は平成14年6月15日(土)、16日(日)、実行委員長は富盛伸夫氏に依頼する予定である。

(2) 大会研究発表に関する規定変更

大会研究発表に関して、大会運営委員長日比谷潤子氏から規定変更が提案され、審議の末、了承された。変更点の骨子は以下のとおり。(変更点の詳細は別記1を参照のこと)

- ・現在、大会発表応募要旨の分量には、和文の場合400字詰原稿用紙4枚分以内、英文の場合はダブルスペース2枚以内という規定があるが、最近この規定を守らない応募が増えてきている。これを受け、分量の規定をA4用紙1枚に変更する。
- ・従来、研究発表に関して「30分の持ち時間の中に5分程度の質疑応答の時間を含む」との規定があるが、実際の研究発表においては、この時間配分が守られておらず、質疑応答がほとんど行われない例が多々見られる。この状態を改善し、質疑応答を充実させるために、持ち時間の規定を「発表時間20分、質疑応答10分」とする。
- ・『言語研究』掲載の発表要旨は従来、発表当日に提出を求めていたが、今後は予稿集原稿と同時に提出を求める。これは、研究発表採用後、発表のタイトル変更を行う発表者が見受けられ、大会プログラムとの整合性を欠くケースがあるためである。

(3) 学生会員の設定

上記の件について、常任委員坂本勉氏から常任委員会案が提出され、審議の結果、以下のことが決定された。

- (i) 若手研究者を積極的に育てるという趣旨で、学生会員というカテゴリーを設ける。
- (ii) 大学、短大などに在籍する学生に関して、「学生

会員」の 카테고리を作り、会費を4,000円（在外会員5,500円）とする。

(iii) 確認のために学生証のコピーなど学生の身分を証明するものを提出させる、(iv) 学生会員は、選挙権・被選挙権ともに持たないものとする。（通常会員になれば両方を有することが可）

また、これに伴い、会則および会員名簿掲載の事務手続き案内などに変更が加えられることになった。（会則変更の詳細は別記2を参照のこと）学生会員の設置は平成14年度からとし、会員への告知は第123回大会の会長挨拶および『言語研究』120号で行う。

(4) 夏期講座2002の予算案

夏期講座2002の予算について審議が行われ、夏期講座検討委員会が提出した予算案が承認された。参加費用は一般55,000円、学生45,000円である。

(5) 国際学会 Linguistics and Phonetics2002 への後援依頼

上記の件について、同組織委員会会長、原口庄輔氏から後援依頼文書が提出された。また、同委員の窪園氏からこの学会の意義について説明があった。これを受け、審議を行った結果、学会として後援を行い、後援金として10万円を支出することになった。

(6) 国際交流言語コロキウム『言語理論と言語教育』への後援依頼

上記の件について、神戸大学の小川暁夫氏から依頼文書が提出された。それに基づいて審議を行った結果、学会として後援することになった。（後援金はなし。）

(7) 各種学会からの後援依頼への対応について

上記(5)(6)の議論を受け、今後の後援依頼に関する対応について議論が行われた。その結果、今後は後援依頼を行う主催者側代表に、委員会での趣旨説明および予算案の提示を求め、それを元に当該学会の言語学会会員に対するメリットを検討し、後援を行うか否かを決定し、後援を行った学会に対しては、学会終了後の報告も求めることが決定された。

【別記1】研究発表に関する規定変更

(旧)

第6項 上記5とは別のA4用紙に発表要旨を書く。発表内容は、和文の場合は400字詰原稿用紙4枚分以内、英文の場合はダブルスペース2枚以内にまとめる。冒頭に発表題目を記すが、氏名や所属等は書かない。発表要旨は6部(コピー可)提出する。

第8項 持ち時間は1人30分とする。その中に5分程度の質疑応答の時間が含まれる。

第12項 発表者は、別項「予稿集原稿作成要領」に従って、事務局から指定されている期日までに予稿集原稿を提出する。

第13項 研究発表者は『言語研究』掲載用の発表要旨を発表当日に会場受付に提出する。分量は和文は400字以内、英文はダブルスペース半ページ以内(図表等を含む)とする。特殊な文字は可能な限り避ける。

(新)

発表要旨はA4用紙1枚に書く。和文・英文とも10ポイント以上のフォントを用いる。冒頭に発表題目を記すが、氏名や所属等は書かない。発表要旨は6部(コピー可)提出する。

持ち時間は1件30分とする。発表時間は20分、質疑応答は10分とする。

(旧第12項と第13項を合体)

研究発表者は、事務局から指定された期日までに予稿集原稿と『言語研究』掲載用の発表要旨を提出する。予稿集原稿は、別項「予稿集原稿作成要領」に従って作成する。『言語研究』掲載用の発表要旨は、和文は400字以内、英文は120語以内とする。特殊な文字は可能な限り避ける。

【別記2】学生会員の設定に伴う会則の変更

(旧)

第6条 本会の会員は、通常会員、維持会員、賛助会員、名誉会員の4種とする。

第7条

(新)

本会の会員は、通常会員、維持会員、賛助会員、名誉会員、学生会員の5種とする。

3 学生会員は、本会の趣旨に賛成し、所定の手続(注)を経て、本会に登録された個人とする。

第10条 3 個人会員は、会長、編集委員長、会計監査委員、委員の選挙権および被選挙権、ならびに日本学術会議会員候補者およびその推薦人、科学研究費審査委員候補者、国際会議への本会代表等の被選挙権を有する。ただし、外国在住の会員は、当分の間、選挙権および被選挙権を有しない。

3 個人会員は、会長、編集委員長、会計監査委員、委員の選挙権および被選挙権、ならびに日本学術会議会員候補者およびその推薦人、科学研究費審査委員候補者、国際会議への本会代表等の被選挙権を有する。ただし、外国在住の会員は、当分の間、選挙権および被選挙権を有しない。学生会員は、選挙権および被選挙権を有しない。

注 記

○ 第7条第1項の「所定の手続」について

当年度の会費を納入すること。会費は年7,000円（在外会員は年8,500円）とする。

○ 第7条第3項の「所定の手続」について

当年度の会費を納入すること。会費は年4,000円（在外会員は年5,500円）とする。

学生会員は、入会手続き時、および年度毎に当該年度有効の学生証のコピー、在学証明書など、学生の身分を証明するものを、ファックスあるいは通常郵便で、4月30日までに送付すること。

選挙細則

注1) 選挙権を有しない場合とは、次の場合である。

注2) 被選挙権を有しない者とは、次の者である。

選挙権を有しない場合とは、次の場合である。

4 学生会員。

被選挙権を有しない者とは、次の者である。

4 学生会員。

(平成13年11月17日修正案可決。)

日本語学会
事務手続案内

日本語学会事務局
(電話075-415-3661)

日本語学会事務局
電話075-415-3661
Fax 075-415-3662

§1 入退会の申し込み

入会を希望する方(あるいは入会案内の送付を希望する方)はハガキに、その旨と、連絡先(郵便番号)・氏名を記し、事務局までお送りください。折返し書類をお送りします。当学会入会に際しては特に条件はありません。会費を払えばどなたでも入会できます。

入会を希望する方(あるいは入会案内の送付を希望する方)はハガキに、その旨と、連絡先(郵便番号)・氏名を記し、事務局までお送りください。折返し書類をお送りします。当学会入会に際しては特に条件はありません。会費を払えばどなたでも入会できます。ただし、学生会員の場合、学生証のコピー、在学証明書など、学生の身分を証明するものを、ファックスあるいは通常郵便で送付していただきます。

§2 会費の納入

1 国内会員の場合

会費額は、個人・団体ともに、通常会員は年7,000円、維持会員は10,000円です。

2 在外会員の場合

会費額は、個人・団体ともに、年8,500円(維持会員は10,000円)です。

1 国内会員の場合

会費額は、個人・団体ともに、通常会員は年7,000円、維持会員は10,000円、学生会員は年4,000円です。

2 在外会員の場合

会費額は、個人・団体ともに、年8,500円(維持会員は10,000円、学生会員は年5,500円)です。

第123回大会

期 日 2001年11月17日(土)～18日(日)

会 場 九州大学

第1日(11月17日)

開会の辞

会 長

開催校挨拶

池田 紘一

公開シンポジウム

午後1時40分～4時00分

こころの科学としての言語研究

—心理学と言語学の対話—

司会 坂本 勉

言語研究：心理学の立場と事情

石田 潤

文理解実験の現場から

井上 雅勝

—理論と実証のすれちがい

・相互理解・相互作用—

生物言語学アプローチの可能性

酒井 弘

—古典的類型論の再考を通して—

非動作主主語構文の統語構造と

長谷川 信子

その心理的实在性

一般討論

総 括

研究発表 午後4時10分～5時40分

▫A 会 場

司会 平野 尊識

(A 1) 4:10～ 尊敬表現 '(r) are-ru' に関する日-イ対
照に基づく—考察—尊敬表現は「スル
型」か「ナル型」か—

湯 浅 章 子

(A 2) 4:40～ 「てやる」構文について

加 藤 鉦 三

高 見 健 一

(A 3) 5:10～ 「他動詞受動形+テアル」構文の成立条
件について

森 貞

▫B 会 場

司会 寺田 寛

(B 1) 4:10～ 不定詞句における数量詞遊離

佐々木 淳

- (B 2) 4:40~ Belfast English の *To* 不定詞句補部に対するミニマリスト・アプローチ 松原 史典
- (B 3) 5:10~ Perspicuous Analysis of Wager-class Verbs in ECM Constructions 山本 匡樹
- C 会場
- 司会 田村 宏
- (C 1) 4:10~ 指示詞ア・コ・ソの文脈照応用法についての一考察 豊川 典子
- (C 2) 4:40~ 現代ウイグル語指示詞体系の再考 西岡 いずみ
- (C 3) 5:10~ 空間用法からアスペクト用法への転化における視点对立—日本語・中国語・朝鮮語の対照を中心に— 白 海燕
- D 会場
- 司会 田中 真一
- (D 1) 4:10~ Lexical Neighborhood Effects in Japanese: Evidence from naming experiments 米山 聖子
- (D 2) 4:40~ 日本語を母語とする児童の心内辞書と音素認識の研究 大竹 孝司
坂本 洋子
- (D 3) 5:10~ 日本語におけるモーラの鼻音の特徴 桑本 裕二
- E 会場
- 司会 児玉 望
- (E 1) 4:10~ Taking off the veil of the Janus-faced 'take'—The story of 'take' as a vector in Indic languages— Prashant
Pardeshi
- (E 2) 4:40~ フ語における「再帰代名詞/助詞」*ti?*の機能と用法 山田 敦士
- (E 3) 5:10~ フリュートル語形容詞の関係形と所有形 永山 ゆかり
- 懇親会 午後6時~8時

第2日 (11月18日)

公開講演 午前10時~11時30分 Oddballs and Insiders J. K. Chambers

研究発表 午後1時00分~4時20分

◦A 会場

司会 熊本 千明

- (A 4) 1:00~ 日本語の形容詞のディスコース上の機能—Thompson 1988 の分析にしたがって— 八 亀 裕 美
- (A 5) 1:30~ 新聞投稿の談話構造—談話ストラテジーの投稿テーマ別比較— 高 中 英 貴
- (A 6) 2:00~ Information spreading and light verb constructions in Japanese 小 原 真 子
司会 安仁屋宗正
- (A 7) 2:50~ 連体修飾におけるトイウの機能について 金城 由美子
- (A 8) 3:20~ 日本語の「—たち」と数の素性 川 派 愛
- (A 9) 3:50~ 「も」の解釈—「夏も終わりですね」— 澤田 (山中) 美恵子

・B 会 場

- 司会 岸本 秀樹
- (B 4) 1:00~ 「NP かどこか」, 「NP なんか」の束縛変項解釈 高 井 岩 生
- (B 5) 1:30~ Quantifier-Negation Interaction in Child Japanese 照 沼 阿 貴 子
- (B 6) 2:00~ A Negative Concord Approach to SIKA-NAI 古 川 幸 夫
司会 吉田 光演
- (B 7) 2:50~ vP と素性指定 毛 利 史 生
- (B 8) 3:20~ The Kaynean Analysis of Nominal Modification and Its Parametric Implications 星 浩 司
- (B 9) 3:50~ Wh-In-Situ Revisited: Three Proposals to the Derivational Minimalism 石 森 知 彦
水 口 学
小 畑 美 貴

・C 会 場

- 司会 笹栗 淳子
- (C 4) 1:00~ Word Order of Verbs and Resultant Expressions 兼 元 美 友
- (C 5) 1:30~ 日本語と英語における程度の低さを示す表現について Szymon Grzelak

- (C 6) 2:00~ 動詞の習得—指示事象の特性と入力
のタイミングとの関連性—
司会 江口 正 荒木 学
- (C 7) 2:50~ 日本語のコントロール述語とその補文
—「こと」節及び NP を中心に— 佐藤 香織
- (C 8) 3:20~ SVOC 構文の段階性—主体化の概念を
用いて— 横島 亜美
- (C 9) 3:50~ 文法形式の多義性と論理関係 斉藤 学
- D 会場
- 司会 深澤はるか
- (D 4) 1:00~ Metrical evidence for cliticization in
Nivkh pronouns 白石 英才
- (D 5) 1:30~ スペイン語複数形形成と韻律主要部に
対する忠実性制約 菊池 清一郎
- (D 6) 2:00~ 日本語（本土方言）の母音融合と音声
素性の優位性 杉本 貴代
- 司会 有田 節子
- (D 7) 2:50~ ベトナム語における与格表現 レ・ホアン
- (D 8) 3:20~ スウェーデン語の2重目的語構文の拡
張 當野 能之
- (D 9) 3:50~ 与格／二重主語構文について—日本語
感情表現の分析から— 真野 美穂
- E 会場
- 司会 樋口 康一
- (E 4) 1:00~ Unifying Three Intransitivization
Phenomena in Plains Cree 廣瀬 富男
- (E 5) 1:30~ モンゴル語および近隣諸言語の複数接
尾辞と名詞句階層 山越 康裕
- (E 6) 2:00~ ハワイ語における数詞文について 塩谷 亨
- 司会 和田 学
- (E 7) 2:50~ 韓国語自動詞の -ko issta 形 若生 正和
- (E 8) 3:20~ ケレウェ語のテンス・アスペクト体系
について 小森 淳子
- (E 9) 3:50~ アラビア語エジプト方言の bi- を伴う
未完了形と無標的未完了形 榮谷 温子

- ◇ 退 会
- | | |
|--------|----|
| 国内個人会員 | 5名 |
| 在外個人会員 | 2名 |
| 国内団体会員 | 2名 |

◇ 誤記の訂正

『言語研究』第120号に以下の誤記がありましたので、お詫びして訂正いたします。

	誤	正
131頁1行目	【書評論文】	【紹 介】
131頁3行目	『 <i>Presumptive</i>	<i>Presumptive</i>
131頁4行目	<i>Implicature</i> 』	<i>Implicature</i>
132～133頁柱	書評論文	紹 介
145頁7行目	『言語研究』投稿いただき	『言語研究』に投稿いただき
146頁5行目	123号を特集号をこれに	123号をこれに

◇ 本誌は、文部科学省平成13年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。